

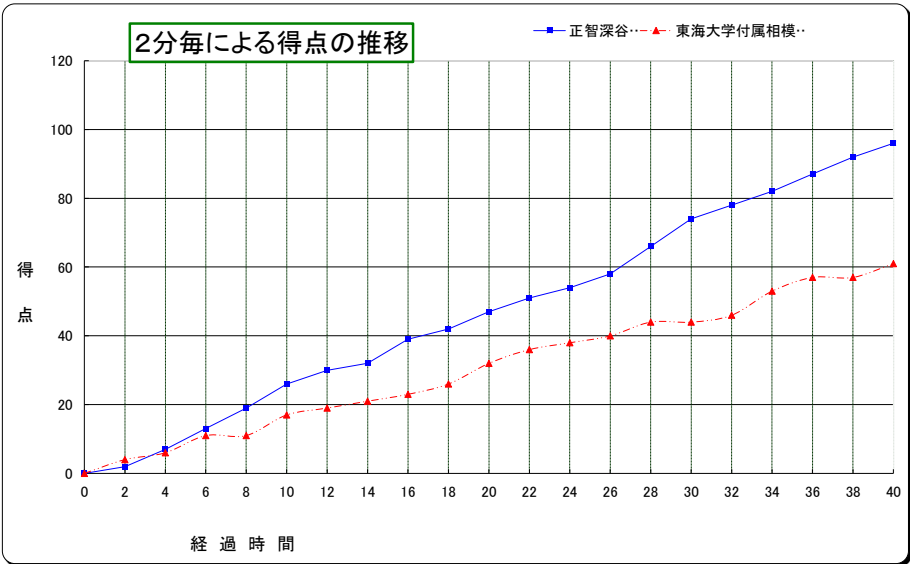
# 平成28年度第70回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成28年6月4日(土)  
深谷ビッグタートル  
Aブロック2回戦

チームA	96	{	26	1st	17	}	61	チームB
正智深谷 (埼玉)			21	2nd	15			東海大学付属相模 (神奈川)
			27	3rd	12			
			22	4th	17			

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	山口 颯斗	27	2	7	10	18	1	1	0	7	4	4	1	2	1
5	中島 修平	6	1	4	1	3	1	2	1	1	2	1	5	0	1
6	角田 憲信	18	0	0	9	20	0	3	2	4	1	0	2	1	0
7	増田 英寿	12	0	0	5	12	2	2	2	4	6	1	1	1	1
8	山口 大成	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0
9	常田 耕平	11	2	6	2	7	1	2	2	0	3	0	4	0	3
10	中村 吏	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0
11	野元 啓太郎	6	0	0	2	4	2	4	0	0	2	1	0	0	2
12	川口 颯太	9	1	3	3	4	0	0	0	1	2	3	6	0	1
13	田中 翔真	5	1	2	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0
14	阿久津 瞬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	渡邊 圭吾	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1
16	國分 大雅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	早川 竜生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	勝山 大輝	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コーチ	成 田 靖									8	12				1
確率		96	7	23	34	75	7	14	8	28	36	10	21	4	11
				30.4%		45.3%		50.0%		計	64				

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	草柳 翔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
5	伊藤 健二	3	0	0	1	5	1	2	5	2	0	0	2	0	1
6	寒川 光太	18	0	1	7	18	4	4	2	2	10	0	2	1	5
7	和田 麗空	7	0	0	2	6	3	4	1	0	2	3	4	0	3
8	小澤 雅也	13	1	4	5	11	0	0	2	0	4	2	1	0	2
9	兼成 光貴	4	0	0	2	6	0	0	0	0	2	0	0	0	1
10	岡本 佳有	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	中西 洸誠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	千葉 克紘	2	0	3	1	4	0	0	1	0	4	1	2	0	4
13	梅谷 天志	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	玉木 海成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	佐土原 遼	14	0	0	7	16	0	2	4	4	2	0	3	0	4
16	森澤 公平	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	宇田川 凌汰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	染中 渉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コーチ	原 田 政 和									7	8				0
確率		61	1	8	25	67	8	12	15	15	33	6	14	1	20
				12.5%		37.3%		66.7%		計	48				



## 戦評

第1P、正智深谷はハーフコートマンツーマンに対して、東海大相模はオールコートマンツーマンでスタートする。東海大相模はゴール下中心に攻めようとするが、正智深谷の激しい確かなダブルチームに苦しめられる。ドライブインに対しても正智深谷の対応の早いヘルプディフェンスによって良いシュートを打たせてもらえない。正智深谷は厳しいディフェンスから速攻を確実に決める。ハーフコートオフenseでは、1対1を中心に得点をあげ9点差をつけて第1Pを終了する。

第2P、両チームとも変わらず正智深谷はハーフコートマンツーマンに対して、東海大相模はオールコートマンツーマンでスタートする。東海大相模はスクリーンを使いノーマークを作ろうとするが、正智深谷はしっかりと対応してノーマークを作らせない。正智深谷は第1Pと同じ厳しいディフェンスからの速攻を確実に決め、点差をひろげて第2Pを終了する。

第3P、東海大相模は2-2-1ゾーンプレスからの2-3ゾーンで反撃に出る。第3P序盤、正智深谷はゾーンプレスのトラップにつかまり、東海大相模に連続得点を許す。相手のゾーンに対して得点が止まった正智深谷は#6を投入する。これが功を奏し、相手のゾーンが戻りきる前に速攻で得点する。正智深谷は再び流れを取り戻し、点差をさらにひろげて第3Pを終了する。

第4P、東海大相模は再びオールコートマンツーマンにして勝負をかける。東海大相模はインサイド中心に攻め意地をみせるが、正智深谷の激しい確かなディフェンスを攻略することができない。最後まで走り抜いた正智深谷が東海大相模を圧倒し、準決勝進出を決めた。

記録者: 村田 洋佑

Ref	石田 祐二	1st U	安藤 俊明	2nd U
-----	-------	-------	-------	-------